

# 第19回 コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2016. 2. 23 熊山 ともみ

興和創薬(株)

## SGLT2阻害薬「デベルザ錠」

興和創薬(株) 熊谷 雄基さん

場所：コンパス薬局藤沢

参加者：沢先生、内科職員さん、松下さゆり、空田さやか、熊山ともみ

体内のさまざまな場所に存在しているSGLTの種類の中で、SGLT2は、腎臓の近位尿細管という場所に限定的に存在している。SGLT2の働きを阻害すると、近位尿細管でのグルコース再吸収が減り、その分だけ尿糖の排泄が増え、高血糖が改善される。今回は、SGLT2阻害薬であるデベルザについて勉強会を行った。

〈効能又は効果〉

2型糖尿病

〈用法及び用量〉

通常、成人にはトホグリフロジンとして20mgを1日1回朝食前又は朝食後に経口投与する。

〈禁忌〉

- ・本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- ・重症ケトosis、糖尿病性昏睡又は前昏睡の患者〔輸液、インスリンによる速やかな高血糖の是正が必須となるので本剤の投与は適さない。〕
- ・重症感染症、手術前後、重篤な外傷のある患者〔インスリン注射による血糖管理が望まれるので本剤の投与は適さない。〕

〈副作用〉

承認時まで臨床試験において、1060例中397例（37.5%）に副作用がみられた。

主な副作用は血中ケトン体増加117例（11%）、口渇80例（7.5%）、頻尿80例（7.5%）等。重大な副作用として低血糖、腎盂腎炎、敗血症、脱水、ケトアシドーシスがあらわれることがある。

〈考察〉

SGLT2をターゲットとする薬剤は多くあり、その中でデベルザはSGLT2への選択性が最も高い。それによりSGLT1を阻害したときに見られる下痢や心疾患系のSE等を防ぐことができる。また半減期が最も短く5.4時間のため、中止事例の際に体内から除去されるの

が早い。タンパク結合率が高いことで24時間を通してしっかりとした効果が見られると言ったことだ。多くあるSGLT2阻害薬の中、作用機序に伴いすべての薬剤で同じような副作用が起きる。口渇、脱水（水分摂取の推奨）皮膚症状（皮膚科受診を示唆）等、薬剤の特徴（半減期等）を念頭に置き、投薬に当たりたいと考える。

- ・ デベルザ20mg 割線あるが、割れづらい。
- ・ アルコール好きの患者さんには低血糖SE起こりやすい。
- ・ 各SGLT2阻害薬の直接比較の論文はまだ出ていない。